

発 言 者	審議内容（発言内容、審議経過、結論等）
	〈テーマ１：広報〉 ・（広報全般）紙媒体は保存しやすく手元で確認しやすい面があり、デジタルは検索・保存が便利である。両者それぞれのメリットを活かした多チャンネル対応が重要である。 ・広報誌を見ていない人がいる実態について、見る動機づけと届け方の工夫が必要である。QRコードで詳細情報に誘導するなど、紙とデジタルの連携が有効である。 ・ホームページ障害（令和8年1月に発生）の際に、公式FacebookやLINEが情報補完の役割を果たしたことを紹介した。複数媒体への同時配信の重要との意見あり。 ・情報の受け手側（特に中高生のWi-Fi環境や学習用デジタル環境の整備）についても、行政として考慮が必要である。 ・偽サイト・SNS詐欺の増加を踏まえ、公式ホームページからの情報確認を町民に啓発し、「美幌町の公式サイトを開く習慣」を根付かせることが情報セキュリティ上も重要である。 ・住民からの情報発信（住民一人一人が魅力を発信する仕組み）について、行政からの一方的な発信だけでなく、住民が「伝えたい」と思える仕組みと環境づくりが必要である。高校生・若者世代の動画発信を活用することで町の魅力発信と若者の地域参画が同時に実現できる。 〈テーマ２：広聴〉 ・議員カフェ（気軽に話せる意見交換の場）のようにざっくばらんに話せる場が実際に多くの住民に反響があることを紹介した。成人式での不満（他自治体との比較等）も含め、モヤモヤを話したい住民は多く、そういう場が行政への信頼構築にもつながる。 ・住民の意見が議員→議会→行政というルートで変質してしまうリスクについて問題提起した。行政が直接住民の声を聞く広聴の場の充実が重要である。 ・デジタルサイネージ（役場や施設内の電子掲示板）を活用した注意喚起情報・地域の出来事等のリアルタイム発信の提案あり。 地域の高齢者見守りに協力いただいている個人に負担が集中している実態があり、その代替となる仕組みや後継者確保が課題である。